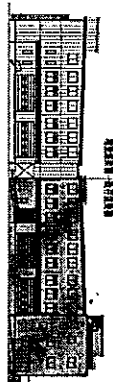


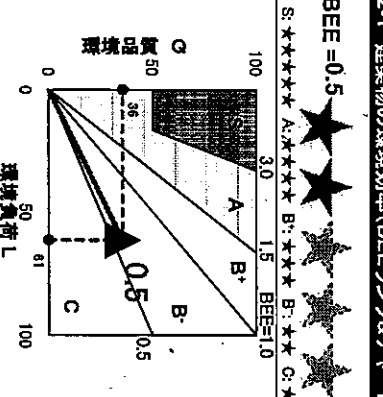
CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価メニューURL: CASBEE-建築(新築) | 使用評価シート: CASBEE-BD_NC_2016v2.1

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	㈱フタバパシフィックロスコルンズ工場	階数	地上3F
建設地	埼玉県羽生市大字羽生学園町1083	構造	S造
用途地域	市街化調整区域・指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	S地域	年間使用時間	1,920時間/年(法定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年12月 予定	作成者	高橋 彬
敷地面積	16,513 m ²	確認日	2016年3月25日
建築面積	1,303 m ²	確認者	高橋 彬
延床面積	3,295 m ²		
			

2-1 建築物の環境効率(BEE)ラシク&チャート **BEE=0.5** ★★★★★

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B+:★★★★ C:★★★



2-2 ラシクCO2(環境化)ラシクチャート ☆☆☆☆☆

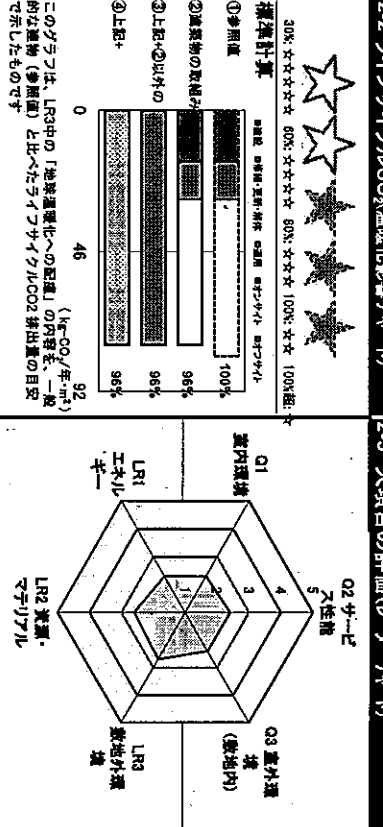
30%:★★★★★ 60%:★★★★★ 80%:★★★★ 100%:★★★★ 100%超:★★★★★

①参照値 100%
 ②建築物の取組値 96%
 ③上B+②以外の 96%
 ④上B+ 98%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への取組」の内容を、代表的な建築物(参照値)と比較したラシクCO2排出量の目安を示したものです。

92 (1年CO₂/年㎡)

2-3 大項目の評価(U-ラシクチャート)



Q1 室内環境 Q2 サービス性 Q3 室外環境 (敷地内) LR 環境負荷低減性

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q1 室内環境 Q1のスコア=2.3

1	音環境	2.8
2	熱環境	1.7
3	光環境	2.8
4	空気環境	3.0
5		

Q2 サービス性 Q2のスコア=2.4

1	機能性	2.0
2	耐用性	2.8
3	対応性	2.8
4		
5		

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア=2.4

1	生物環境	2.0
2	まちなみ	3.0
3		
4		
5		

LR 環境負荷低減性 LRのスコア=2.5

1	LR1 エネルギー	2.3
2	LR2 資源・マテリアル	2.6
3	LR3 敷地外環境	2.7
4		
5		

3 設計上の配慮事項

・工務従業員の作業が快適に行われ、効率よく作業が進む様に設計。

Q1 室内環境

・従業員が快適に作業出来る様に設計。

Q2 サービス性

・工務のための特に配慮はなし。

Q3 室外環境 (敷地内)

・敷地内でシステムズにトラツク・従業員の通勤に関して動線を考慮。
 ・緑地の確保するために駐車庫は緑地駐車場とする。

LR 環境負荷低減性

・できる限り周辺に影響がないよう、機器の配置をした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築物総合性能評価システム)

■Q1: Quality (建築物の環境品質), L1: Load (建築物の環境負荷), LR1: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ラシクCO₂とは、建築物の単位生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■詳細対象のラシクCO₂排出量は、Q1, LR1, LR2中の建築物の寿命・省エネルギー・省資源などの項目の評価結果から自動的に計算される

CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-BD NC_2016(v2.1)
 環境配慮設計の概要記入欄

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-BD NC_2016(v2.1)
 ■評価シート

スコアシート 実施設計段階














完成項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						
Q1 室内環境		0.30		2.8		2.4
1 音環境		1.9	0.15			1.9
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		1.4	0.40			
1		1.0	0.60			
2		2.0	0.40			
3						
4						
1.3 吸音		1.0	0.20			
2 温熱環境		1.7	0.35			1.7
2.1 室温制御		1.3	0.50			
1		2.0	0.38			
2		1.0*	0.25			
3		1.0	0.38			
2.2 湿度制御		1.6	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
3 光・視環境		2.8	0.25			2.8
3.1 星光利用		2.4	0.30			
1		2.0	0.60			
2		3.0	0.40			
3		3.0	0.30			
3.2 グレア対策		3.0	1.00			
1		3.0	0.15			
3.3 照度		3.0	0.25			
3.4 照明制御		3.0	0.25			
4 空気環境		3.0	0.25			3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.50			
1		3.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.30			
1		3.0*	0.33			
2		3.0*	0.33			
3		3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1		3.0	0.50			
2		3.0	0.50			
Q2 防災・防災性能		0.30		2.4		2.0
1 機能性		2.0	0.40			
1.1 機能性・使いやすさ		1.6	0.40			
1		3.0*	0.33			
2		1.0	0.33			
3		1.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		2.0	0.30			
1		3.0	0.33			
2		2.0	0.33,			
3		1.0	0.33			
1.3 維持管理		2.5	0.30			
1		3.0	0.50			
2		2.0-	0.50			
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30			2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1		3.0	1.00			
2		3.0	0.30			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30			
1		3.0	0.20			
2		3.0	0.20			
3		3.0	0.10			
4		3.0	0.10			
5		3.0	0.20			
6		3.0	0.20			
2.4 信頼性		2.0	0.20			
1		3.0	0.20			
2		2.0	0.20			
3		1.0	0.20			
4		3.0	0.20			
5		1.0	0.20			

3 対応性・更新性 3.1 空間のゆとり 1 階高のゆとり 2 空間の形状・自由さ 3.2 荷重のゆとり 3.3 設備の更新性 1 空調配管の更新性 2 給排水管の更新性 3 電気配線の更新性 4 通信配線の更新性 5 設備機器の更新性 6 ハウジングスペースの確保	2.8	0.30			2.8
	3.0	0.30			
	3.0	0.60			
	3.0	0.40			
	3.0	0.30			
	2.6	0.40			
G9 室外環境(敷地内) 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 地域性・デザインへの配慮 3.1 地域性への配慮、快適性の向上 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.40			2.4
	2.0	0.30			2.0
	3.0	0.40			3.0
	2.0	0.30			2.0
	1.0	0.30			
	3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性 LR1 エネルギー 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギー利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用 集合住宅以外の評価 4.1 エネサリゾ 4.2 運用管理体制 集合住宅の評価 4.1 エネサリゾ 4.2 運用管理体制		0.40			2.5
		-			-
	3.0	0.13			3.0
	2.3	0.63			2.3
LR2 資源・エネルギー 1 水資源確保 1.1 節水 1.2 雨水利用・雑排水等の利用 2 非再生性資源の使用量削減 2.1 材料使用量の削減 2.2 既存建築躯体等の継続使用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 持続可能な森林から産出された木材 2.6 部材の再利用可能性向上への取組み 3 汚染物質を含む材料の使用回避 3.1 汚染物質を含む材料の使用 3.2 クロム/ハロゲンの回避 1 消火剤 2 塗料剤(断熱材等) 3 冷媒		0.90			2.6
	2.2	0.20			2.2
	1.9	0.40			
	3.0	0.60			
LR3 敷地外環境 1 地球温暖化への配慮 2 地域環境への配慮 2.1 大気汚染防止 2.2 温熱環境悪化の改善 2.3 地域インフラへの負荷抑制 1 雨水排水負荷低減 2 汚水処理負荷抑制 3 交通負荷抑制 4 廃棄物処理負荷抑制 3 周辺環境への配慮 3.1 騒音・振動・悪臭の防止 1 騒音 2 振動 3 悪臭 3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制 1 風害の抑制 2 砂塵の抑制 3 日照障害の抑制 3.3 光害の抑制 1 屋外照明及び風内照明の3色色に調光可能な等色への削減 2 屋外の建物外壁による反射光(テレビ)への対策		0.20			3.6
	3.6	0.20			
	5.0	0.30			
	3.0	0.70			
G02 排出量の抑制	3.0	1.00			
	3.1	0.33			3.1
	2.0	0.33			2.0
	3.0	0.25			
	1.0	0.50			
	3.0	0.25			
3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0 3.0	3.0	0.33			3.0
	3.0	0.40			
	3.0	0.33			
	3.0	0.33			
3.0 3.0- 3.0 3.0	3.0	0.40			
	3.0-	0.30			
	3.0	0.20			
3.0 3.0 3.0	3.0	0.25			
	3.0	0.25			
	3.0	0.70			

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトCASBEE埼玉県2015年版

1 建物概要			
建物名称	㈱フアッションクロスビルシマ工場	BEE	0.8
		BEEランク	★★

2 重点項目の評価					
ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		=	6.1
4.1	+	2.0			 
重点項目の各スコアの合計点					
かんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上		          

3 重点項目についての環境配慮概要			
(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均 4.1	
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
・ 周辺への影			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均 2.0	
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0
・ 工場立地法に基づき敷地の25%以上の緑化。			

: 入力欄